

磨かれる原石！ 世界最速を目指して

瀬戸 大也くん (毛呂山中学校)

瀬戸大也くんは、平成19年度に行なわれた『全国中学校体育大会水泳競技大会』において200mおよび400m個人メドレーで6位入賞に輝いた水泳選手である。

身長168cm。中学生にしては、高いほうではあるが、まだまだこれから更に成長することを期待させる体型である。

全国大会への出場

平成19年8月23日、瀬戸くんは岩手県盛岡市にあるプールにいた。全国中学校体育大会水泳競技男子200m個人メドレー決勝の舞台である。前日の400m個人メドレーに引き続き、決勝まで勝ち上がったのであった。瀬戸くんの取り組みは個人メドレーとは、バタフライ、背泳



瀬戸大也くん

ぎ、平泳ぎ、自由形の四泳法を全てひとりで泳ぐ種目である。中学一年生にして初めて出場した全国大会。「全国大会には出場することが目標で、出場できるだけでうれしかったんです」と瀬戸くんは語る。ところが、並みいる上級生にも負けず200m個人メドレーでも予選を勝ち上がり、決勝に駒を進めた。決勝で掲げた目標は、全国トップクラスの中学生が一堂に会しおこなわれるナショナル選抜合宿に参加できるための標準タイムを切ること。400m個人メドレーでは、惜しくも標準タイムをきることができなかった。そのため、200m個人メドレーでは何としてもこの標準タイムを上回りたいかった。結果は、400m個人メドレーと同じ6位入賞。しかし、目標とする標準タイムを見事突破することができた。

活発だった幼少期

瀬戸くんが水泳を始めたのは5歳からだった。当時サッカーをするか水泳をするか悩んだが、父母の勧めもあり毎日のように体を動かすことができる水泳を選んだと語る。当時

から体を動かすことが大好きな活発な子であったそうだ。水泳を始めてから、一度もやめたいと思ったことはないという。「練習がつらくても、つらい練習を乗り越えれば、大会などで好成績を収められたり、自己タイムの短縮になって自分にかえってくる」「もっと速く泳ぎたい。練習をすればするだけ速く泳ぐことができる。今、泳ぐことがすごく楽しいんです」と笑顔で語ってくれた。

もっと速く泳ぎたい！

ナショナル選抜合宿に参加した後、所属するスイミングスクールの全国選抜選手による合宿、そして東日本ブロックの中学生選抜チームでの海外遠征にも参加した。いろいろな場所で自分より速い人たちと一緒に練習をするという経験をとおして、少しずつではあったが着実に力をつけていった。そして、今年の6月に行われたジャパンオープン200m個人メドレーに中学生ながら出場を果たした。「初めて出場したので、緊張してかんじやいました」と少し照れながら話してくれた。しかしそのタイムは、昨年の全国大会から比べて約3秒も短くなっていた。しかし「準決勝にも残れなかったので、もっと頑張らなくちゃいけないと感じました」と更に練習に力を入れておこなうようになったとい



う。速く泳ぐことに対し貪欲に取り組む強い姿勢が感じられた。

世界最速を目指して！

「将来の夢は、世界に通用するタフな体をつくって、世界記録をいっばいだせる選手になりたいです」と瀬戸くんは語ってくれた。世界の選手と競うためには、まずは世界で通用する体作りが優先だと語るその眼は、遠く世界を見据えているように感じた。

瀬戸くんという原石は、やっと磨き始められたばかり。これからの磨き方によって、様ざまに光り輝く。今後どのような光を放っていくのか、本当に楽しみである。